

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900526		
法人名	株式会社いっしん		
事業所名	いっしん館霞ヶ浦2号棟2階		
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉5200-38		
自己評価作成日	平成24年5月31日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0873900526&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0873900526&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年7月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の広い庭を活用し、館全体でのレクリエーションやリハビリにもなる散歩や日光浴等も楽しんで頂いています。近隣の方々へも開放し利用者様方とも交流の場としても活用してします。又、スタッフや利用者様が外で散歩をする時には積極的に挨拶など声掛けを行い交流しやすいよう工夫しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を朝礼、夕礼で職員全員で共有している。又、ユニット内に理念を掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の公園でBBQ、夏祭り等のイベントに地域の方々を招待し交流の場としている。又、小学校の行事を利用者様と見学しに出向き交流も行っている。運営推進会議では利用者様の家族、行政の方に参加して頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、利用者様や、施設の行いを知って頂く機会を設けている。施設見学者は常に受け入れており、学生の職場体験の場としても提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域役所の福祉関係者、地区長、民生員、利用者含む家族参加の上、運営推進会議を行い、意見を頂き、さらなるサービスの向上へと活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、積極的に伝えている。又、月1度、介護相談員が来館され、その中でも交流を取っている。学生の職場体験、施設見学等の受け入れにも取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。という会社の理念に則り、職員が連携を取り合い、目配り、気配り、見守りを徹底して行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの場でも学ぶ機会を設けており、申し送りや日々の利用者様の状態を記録することで防止に努めている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある時は、関係者の話し合いを密にして行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様と、その家族様と十分話し合い納得して頂くように行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とご家族様から意見や要望があった場合は、その都度対応させて頂いている。苦情や相談は随時受け付けており、即対応に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやマネージャーが個別で面談を行うなどし、対応している。又、社長が同席するスタッフミーティングにて意見を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者はスタッフミーティングに参加し、個々の状況を把握している。又、努力や実績があれば認め、役職につける様な仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1度、講師を招いて色々な内容で研修を行っている。又、外部からの研修にもスタッフが積極的に参加し、内容を現場にも持ち込み伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催している連絡会議などに参加し、同業者と意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と1対1で話を行い、内容をアセスメントに反映し、希望に沿った個別支援計画を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を良く聞き、不安を少しでも解消できる様に努めている。又、サービス開始後も連絡を密に取り合い、いつでも面会等できる様な仕組みになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けながら、その人にあったサービスを提供できる様にしている。さまざまなサービスの中から、合ったものを選べる様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に食事やお茶を飲む時間を作り、洗濯物や食器洗い、料理を教える等いたり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や一泊旅行などのレクリエーションには積極的に参加して頂ける様支援している。又、何かあればその都度、相談、連絡、報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があればいつでも電話ができるようにし、会いに行きたい時は一緒に外出できる様にしている。又、面会等いつでも行える様になっており、ご家族様との外出も可能である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、コミュニケーションの橋渡しをしている。世話役の方には、出来る限り役割を発揮して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、連絡、相談があれば対応している。又、気軽にお立ち寄り頂ける様、関係を断ち切らない付き合いをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意見を聞き希望に沿ったケアが出来る様努めている。又、意思疎通が困難な方でも、ご家族様がいらっしゃれば好きだったものの、暮らしの様子を教えて頂き、その人らしい生活を送って頂ける様支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全スタッフが利用者様の生活歴を把握し、個人個人の特徴を理解し、その方らしい生活を送って頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その日の状況やあった事、要望などケース記録や申し送り帳を活用し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や家族の要望を取り入れ、必要があれば医師、看護師、栄養士に相談を行う。月1回のモニタリングとアセスメントをスタッフ全員で行い、介護計画を作成。日常生活の中でも気付いた事があれば即、家族とも話し合い反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中から、気付いた事、意見があれば主任、ケアマネを中心に話し合い、実行に移している。情報はケース記録、申し送り帳を活用し皆で共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所はグループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の三本柱となっており、利用者の身体状況(介護度)に応じた対応をしている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の際は、地元の野菜等を進んで購入する様に努めている。又、近隣の小・中学校の運動会等に招待されたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望を確認し、受診が出来る様に対応している。連絡、相談も受診時に行い、必要があれば家族も交えての受診も行える様になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や通院時に相談、報告を行っている。月2回の看護師訪問の際にも気になる事等相談をしている。又、いつでも電話連絡が出来る様になっており、指示をあおいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き状態の確認を行っている。又、その際に病院関係者に相談を行い、早期の退院とその後のケアを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則的にターミナルケアは行われませんが、その場合看護師を交えてカンファレンスを行い職員の不安を軽減する。又、ご家族様の要望をケアプランに組み入れ最善の方法を取り入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、消防署にて全ての職員は救命救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、災害が起きた時に対応できる様にしている。地域との連携は運営推進会議にて伝え、参加を呼びかけている。又、非常食は月はじめに在庫の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録、個人情報には鍵付きロッカーで管理保管している。声掛けの仕方に関しては、人生の大先輩という事を忘れないようにし、言葉遣いに配慮している。スタッフ一人一人が尊い気持ちでの声掛けを行うよう、配慮できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言いだせない人でも、いくつかの選択により選んで頂ける様にしている。決定権は常に利用者様側に置いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせて過ごせる様、その日その日に合わせた対応を職員が行っている。イベント参加や外出等、希望があれば計画し、実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様と一緒に衣服を選んだり、移動理容室がいつでも利用できる様になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いが可能な利用者様には、積極的に食事の準備、後片付けを行って頂いている。好みの物を聞き、献立に取り入れ、味見をして頂きながら作る等、一緒に楽しめる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、取る前に温度や味の好みなどを聞き、摂取して頂いている。自力での栄養摂取が困難な方でも、医師から処方された栄養補助ドリンク等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。又、歯科往診にて口腔内のチェックを定期的に行い、指示を受けて対応している。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日の体調を考え、出来そうな方なら、積極的に声掛けをし、トイレに誘導させて頂いている。毎日記録をつけ、排便のチェックを行い、トイレでの排泄を増やせるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、自立で排便が難しい利用者様には職員が付き添い、マッサージ等を行っている。牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材も提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った時間、温度にて入って頂いている。又、入浴剤を使い楽しんで頂ける様支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも希望があれば居室に戻り過ごせる様に支援している。又、温度管理を行い、快適に過ごして頂ける様支援している。天気が良い日には、寝具を天日干しし、清潔にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明、薬の内容は申し送り帳や薬表を活用しスタッフ全員が把握できる様にしている。飲む前と後にスタッフ2名体制で確認を行い、指示通りの服薬ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	合同レクの他にも、その人に合わせた個別レク等も計画し、気分転換に努めている。日常の中でも、お手伝い等の役割を担ってもらう事でやりがい、張り合いのある生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出レク、お花見レク等を行っている。又、日常的にも、ドライブ、散歩、外食等、外へ出る機会を多く設けており、本人の希望があれば個別レクで普段は行けないような場所へも計画をし、行ける様に努めている。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方でも、スタッフの見守りの中、買い物を楽しんで頂ける様にしている。家族にはレシートを添付し、何を買ったか、いくら使ったかを明確にし、報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは希望があればいつでも行える様にしている。家族様からの手紙はご本人様にお渡しし、お礼の電話等もできる様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電球の色や明るさ等に気を配っている。季節に応じた花を飾ったり、飾りを行う事で空間をよりよくなり、過ごして頂ける様支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には利用者様同士で団らんできる様、テーブルやソファを置き、いつでも誰でも利用できる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使っていた家具や配置を工夫する事で、居心地の良い空間づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全体でバリアフリーになっており、トイレ内にも手すりを設置してある。又、トイレ、風呂場等の表示を大きく目につきやすくする事で、誤認を防いでいる。常に清潔に心掛け、置物にも気をつけている。		